

カトリック山形教会報 かすみ

カトリック山形教会報

4

2013.4.28



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



3月31日(日)復活の主日ミサ。雪が降るなか、子どもたちは元気よく教会の庭に隠された「イースターエッグ」を探しに外へ向かいます。

3月31日(日)復活の主日。「復活祭が早い年は春が早い」と言われていますが、この日はあいにく朝から雪が舞う日になりました。前日の聖土曜日(復活徹夜祭)には、三人が洗礼の秘跡に授かり、主の復活の喜びとともに、信仰共同体の仲間としてあたたかく迎え入れられました。また、たくさんの子どもたちもミサにあずかり、春を連れてくる復活祭の喜びをみんなで分かち合いました。

2013年3月28日(聖木曜日) 主の晩さん ミサ説教

主任司祭 本間研二

『今日、神が洗ってくださる』

イエスの弟子たちは、罪を犯しました。ペトロを見てみましょう。ペトロはイエスに向かって言っていました。「先生。わたしはどこへでもついて行きます」勇ましく、そう言っていました。でも、イエスが捕まったとき、ペトロははっきりとイエスを拒みます。二度ならず三度も、「あんな人は知らない」と言います。ペトロだけではありません。他の弟子たちも、イエスを裏切りました。イエスが十字架にかけられたとき、いったい何人の弟子が、イエスのもとにいたでしょう。みんな逃げ去ってしまいました。

ところで、イエスのもとには、たくさんの罪びとがいましたね。マグダラのマリア、ザアカイなど。この二人とユダの間には、なにか違いがあるのでしょうか。ペトロは、どこか違うのでしょうか。皆同じです。主を裏切ってしまったという点で、皆、なんの違いもありません。では、どうして、ユダはあのような最後を遂げ、ペトロなどのユダ以外の弟子たちは、一転して神に立ち返ることができたのでしょうか。ユダも後悔しました。「主を、銀貨30枚で裏切ってしまった。告解したい。ゆるされたい」そう思いました。ユダは走って帰りました。

(2面につづく)

でも、帰る場所を間違えてしまいました。ユダが帰っていったのは、祭司長や律法学者たちのもとでした。彼らのもとへ行って、ユダはこう言ったのかもしれませんが。「ゆるしてください」と。でも、彼らはその言葉を受け取ってはくれませんでした。罪を赦されたいと思って向かった先で、ユダはさらなる悲しみを負ったのでした。そしてユダは、自分の命を断ってしまいました。ユダは、帰る場所を間違えてしまったのです。

神を裏切ったという点では、ペトロなどの弟子たちも同じ罪を犯しました。どこから、違う道に分かれてしまったのでしょうか。「主を裏切ってしまった」ペトロたちの胸に、後悔の念が湧き上がったそのとき、ふと心に浮かんだのは、イエスの言葉だったのではないのでしょうか。それは、放蕩息子の帰りをまちわびる父親の話、だったのかもしれませんが。わたしは、ペトロたちがこの話を聞いたとき、「自分たちには関係のない話」だとして聞き流したのではないかな、と思います。この話を、ペトロたちが本当に心で受け止めた瞬間があったなら、それは、他ならない自分がイエスを裏切ってしまった瞬間、なのではないのでしょうか。「帰りたい。帰ってゆるされたい。イエスが話して聞かせてくださった、神のもとへ」ペトロたちは、こう思ったのではないのでしょうか。ユダが

抱いていた神のイメージ、それは「裁きの神」だったのではないかなと思います。一方、ペトロたちが思い出した神は、「ゆるしの神」です。ゆるし。愛。両手を広げて、立ち返る罪びとを抱きしめてくださる神。その神の姿こそ、ペトロたちが思い出した神の本当の姿。イエスが教えてくださった、いつくしみ深い神の、本当の姿ではないでしょうか。

わたしたちはこの後、洗足式を行います。足を洗います。でも、足を洗うとは、どういうことなのでしょう。足の汚れを落とすことでしょうか。違います。足の汚れではありません。わたしたちの犯した過ち、罪、汚く曇ってしまった心、これを、神に洗っていただくことなのです。自分の汚れてしまった足を、神の前に差し出す。自分の犯してしまった罪を、神の前に差し出す。後悔の念を起こしながら、「神よ。わたしの罪を洗い清めてください」と祈る。今日、7人の方が足を洗われます。しかし、これは、この7人の方だけの話ではないと思います。わたしは、今日この場にいるすべての人、みなさん一人一人の足の汚れ、罪を、神の前に差し出してほしいと思っています。その足の汚れ、罪こそ、今日、神が洗ってくださるもの、神が洗いたいと思ってくださっているもの、神がゆるしたいと思ってくださっているもの、なのではないでしょうか。 (録音・構成 広報部/中村 遼)

山形教会の聖週間



3月24日(日) 受難の主日(枝の主日)



3月28日(木) 聖木曜日(主の晩さん) 洗足式



3月29日(金) 聖金曜日(主の受難)



3月30日(土) 聖土曜日(復活徹夜祭) 洗礼式



洗礼式を終え、本間神父、代父、代母とともに記念撮影



復活徹夜祭ミサで行われた洗礼式



2月24日(日)の入門式を終えて(左から吉田さん、本間神父、後藤さん)

光を求めて

マリア・グラチア 吉田 梢

私が初めて教会を訪れたのは去年の9月頃でした。まだ残暑といわれる時期でしたが、御聖堂に足を踏み入れるとひんやりとした空気が外のねっとりとした空気と違って、少なからず緊張した覚えがあります。

私とキリストの出会い、ある方から「貴方は与えることを知らない」と言われた事で、「与える」とはどういう事なのだろうか、と私自身に問うても答えが出ず、悩み抜いたある日の夜、夢を見た事が始まりでした。夢の中で私は血を吐いていました。目覚めた時、それまで全く縁がなかった教会という文字と「憎みたくない」「許されたい」と思う気持ちが心に浮かんで、それまで堪えていたものが溢れ出しました。そしてその週の日曜日にネットで調べてあったカトリック山形教会のミサに参加させて頂いたのでした。

なぜそんな夢を見たのか、なぜその夢を見たから教会に行かなければならないと強く思ったのか。本当に不思議

でした。ミサに参加して賛美歌や神父様の説教を聞いているうちになぜか私は許された、と思いました。神父様が私に、私が来たのではなく神様が呼んで下さったのだ、とお話しして下さいましたが、もしかしたらそうなのかもしれない、とこの出会いに感謝しております。

洗礼を授かった今、私は神様から愛されているのだ、という安心感が心に芽生えているような気がします。神様の戸を叩けば、しばらくの時はあるけど神様は必ず現れて下さる。そのしばらくの「時」は、どうしてそうなったのか、どうしてその人はそう思ったのか、という背景を考える時間であり、悩む苦しむために与えられた時間であるのだと思います。神様は私に恐れるな、とおっしゃって下さる。苦しみの中に心を開きなさい、とおっしゃって下さる。私は洗礼という大きな恵を頂きました。闇はあるけど必ず光は訪れるものだと思っています。

「より小さくあれ」の言葉を胸に

小さき花のテレジア 後藤 小織

それは、一昨年のある日の事でした。職場の人関係で悩んでいた時、ふと、「隣人を愛しなさい」という言葉が浮かびました。昔読んだ三浦綾子さんの小説に出てきた聖書の言葉でした。

その言葉に誘われるように、司祭館を訪れている自分がいました。本間神父様は、「ちょうど今、帰ってきたばかりで、部屋の中は寒いけれど、どうぞ」と温かく迎えてくださいました。この時がイエス様との出会いだったのでしょうか。

それから約1年2ヵ月が経ち、天の父である神は、「時がきた」ことを知らせてくださいました。

この喜びに満たされた洗礼の日を迎えることができたのも、この道に導いてくださった本間神父様をはじめ、こんなにも弱く小さい者である私のために祈ってくださる共同体の皆様、そして、太陽のような笑顔で包んでくれる代母、工藤陽子さんがいらっしゃったからです。本当に、感謝しております。

このたびの四旬節では、小さき花のテレジアがそうしたよ

うに、小さな三つの犠牲を自分に課しました。しかし、三つのうち二つは数回の誘惑に負け、完全に実行することができませんでした。

しかし、そんな弱い私に、御父は奇跡を起こしてくださいました。私の息子は、この春中学校を卒業し、ある全寮制の学校に合格したのですが、寮に入らなければならないという現実と直面し、拒絶反応を示し、自分の部屋に閉じこもってしまったのです。ところが翌日帰宅すると、落ち着いた様子で「寮に行くよ」と言ってくれたのです。

そんなにも深い愛を注いでくれる御父を愛するゆえに、時にはさも大きい者であるかのように思ってしまう自分を戒め、小さな犠牲を小さな花に変えて花束にして、御父にさげたいと思います。

共同体の皆様、どうか私が少しでも大きくなっていると感じたときは声をかけて、そっと知らせてください。

皆様と共に、信仰を深めていくことができますように…。

フォトグラフ



四旬節の黙想会 3月3日(日)

四旬節第3主日に、横浜教区のラファエル梅村昌弘司教による黙想会と司教ミサが行われ、米沢・長井教会からも多くの信徒が参加されました。



Sr.内原は仙台へ 3月24日(日)

これまでみこころの園、そして新庄教会で働かれておりましたSr.内原わさが新年度は仙台へ異動が決まり、2月12日にお別れのご挨拶がありました。



Sr.海老沢が着任 4月7日(日)

新年度の異動で、Sr.内原に代わり、Sr.海老沢則子が着任されました。みこころの園のパストラルケアワーカー、そして週末は新庄教会に行かれます。



第1回 分かち合い 4月21日(日)

信仰年の今年は3回の分かち合いを開催。第1回は「世界召命祈願の日」に開催され、Sr.海老沢の召命のお話と、Sr.木田の歌で分かち合いをしました。